

資料3 18 三重県における赤潮発生状況(平成22年1月~12月)

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
1 (I-1)	2.25	伊勢湾(北東部)	<i>Skeletonema</i> spp.	2.25 に常滑市鬼崎地先から小鈴谷地先にかけて、 <i>Skeletonema</i> spp.による赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	不明	0m	S spp. 12,100	無	知多のり研究会・愛知県知多農林水産事務所
2 (I-2)	4.23	伊勢湾(北東部)	<i>Chaetoceros</i> spp. <i>Detonula pumila</i> <i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	常滑沖で大型の <i>Chaetoceros</i> spp.および <i>Detonula pumila</i> 等による複合赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	不明	0m	C. spp. 1,200 D. p. 1,000 P.n. spp. 1,060	無	愛知県水産試験場・海幸丸
3 (K-1)	5.6 - 5.14	熊野灘北部(賀田湾~二木島湾周辺海域)	<i>Noctiluca scintillans</i>	5.6 に賀田湾~二木島湾周辺一帯で、 <i>Noctiluca scintillans</i> による着色が確認された。その後、同海域周辺で継続して確認。また、5.14 の三重県調査船あさまによる熊野灘定線観測時にも、同海域周辺で広く赤潮が確認された。なお、赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 405	無	尾鷲水産研究室・調査船あさま
4 (S-1)	5.18	志摩度会(浜島町沿岸~英虞湾中部)	<i>Noctiluca scintillans</i>	英虞湾口(浜島町沿岸)から英虞湾中部にかけて、 <i>Noctiluca scintillans</i> による帯状の赤潮が広く点在。高密度域の細胞数は5,000細胞/ml程度。赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 5,000	無	三重県水産研究所
5 (I-3)	6.1 - 6.3	伊勢湾(奥部)	<i>Skeletonema</i> spp.	6.1 から 6.3 にかけて、伊勢湾奥部の四日市市市~名古屋港沖~空港島周辺海域で、 <i>Skeletonema</i> spp.による赤潮が確認された。最高細胞数は四日市市沖(三重県浅海定線の St.1 付近)の 0m 層の 63,850 細胞であった。漁業被害はなかった。	不明	0m	S. spp. 63,850	無	三重県水産研究所・調査船あさま・愛知県水産試験場・へいわ

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
6 (S-2)	6.2 - 6.3	志摩度会 (南伊勢町～浜島町沿岸・沖合)	<i>Noctiluca scintillans</i>	6.2の三重県調査船あさまによる熊野灘定線観測時に、南伊勢町沿岸～沖合で <i>Noctiluca scintillans</i> による帯状の着色域が多数確認された。また、翌6.3には、浜島町～英虞湾中央部にかけて、同種による潮が確認された。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 不明	無	三重県水産研究所・調査船あさま
7 (I-4)	6.8	伊勢湾(津～白子沿岸)	<i>Noctiluca scintillans</i>	6.7に伊勢湾の津～白子沿岸にかけて、 <i>Noctiluca scintillans</i> による帯状の着色域が確認された。鈴鹿水産研究所の観察(白子港内の0m層)によれば、最高細胞数は5,600細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 5,600	無	三重県漁業取締船はやたか・鈴鹿水産研究室
8 (I-5)	6.8 - 6.9	伊勢湾(東部)	不明	常滑市大野から小鈴谷地先にかけて、赤茶色に変色した赤潮が確認された。種は確認できなかった。漁業被害はなかった。	30.8	0m	不明	無	愛知県知多農林水産事務所
9 (I-6)	6.15	伊勢湾(東部)	<i>Gymnodinium</i> sp. (Midorishio)	常滑市大野から小鈴谷地先にかけて、 <i>Gymnodinium</i> sp.(Midorishio)による赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	30.8	0m	G. sp. 不明	無	愛知県知多農林水産事務所
10 (I-7)	6.15	伊勢湾(中央部)	<i>Noctiluca scintillans</i>	伊勢湾中央部で <i>Noctiluca scintillans</i> による赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	不明	0m	N. s. 不明	無	愛知県水産試験場・へいわ
11 (S-3)	6.15 - 6.24	志摩度会 (阿曽浦)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	6.15から6.24に阿曽浦(この浦)で <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮が確認された。最高細胞数はこの浦奥部の5m層における22,800細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	3-5m	P. d. 22,800	無	南伊勢町南島種苗センター

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
12 (I-8)	6.21	伊勢湾(四日市市楠~津市御殿場)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	6.21 に伊勢湾の四日市市楠町~津市御殿場沿岸にかけて、 <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 21,000 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	H.a 21,000	無	鈴鹿水産研究室
13 (S-4)	7.2	志摩度会(英虞湾)	<i>Noctiluca scintillans</i>	7.2 の三重県調査船まつかぜによるプランクトン調査時に、英虞湾口部で <i>Noctiluca scintillans</i> による帯状の着色域が確認された。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 417	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ
14 (I-9)	7.6	伊勢湾(湾中央部~湾奥部)	<i>Skeletonema</i> spp.	7.6 の三重県調査船あさまによる伊勢湾観測時に、湾中央部~湾奥部にかけて広く <i>Skeletonema</i> spp. による赤潮が確認された。最高細胞数は津沖(伊勢湾定点の St.8)0m 層の 32,950 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	S.spp. 32,950	無	鈴鹿水産研究室・調査船あさま
15 (S-5)	7.13 - 7.16	志摩度会(英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	7.13~7.16 にかけて、英虞湾奥部の鵜方浜~ヒオウギ荘前周辺海域で <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が発生した。最高細胞数は 14,875 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	H.a. 14,875	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ
16 (S-6)	7.20 - 8.2	志摩度会(英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	7.20 に英虞湾の湾奥部(又吉前)で <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が確認された。この赤潮は 8.2 まで継続して確認された。最高密度は 7.26 の又吉前(B-1m 層)における 710 細胞/ml であった。分布層は中~底層が中心。なお、 <i>Heterocapsa circularisquama</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮として取り扱った。	不明	5m 層以深(中~底層)	H.c. 710	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ・真珠研究会

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
17 (I-10)	8.1	伊勢湾(北東部)	小型藻類	8.1に野間沖以北の海域で、体長10m前後で球形や四角形の形状をした小型藻類による赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	>192	0m	小型藻類 52,800	無	愛知県水産試験場・へいわ
18 (I-11)	9.27	伊勢湾(北東部)	<i>Thalassiosira</i> spp. <i>Chaetoceros</i> spp. <i>Pseudo-nitzschia</i> spp. <i>Skeletonema</i> spp.	9.27に伊勢湾北東部の海域で <i>Thalassiosira</i> spp.や <i>Chaetoceros</i> spp.等を主体とする珪藻類の複合赤潮が確認された。最高細胞数は <i>Thalassiosira</i> spp.で14,800細胞/ml、 <i>Chaetoceros</i> spp.で12,950細胞/mlであった。漁業被害はなかった。	>85	0-5m	T. spp. 14,800 C. spp. 12,950 P. spp. 3,150 S. spp. 3,675	無	愛知県水産試験場・へいわ
19 (S-7)	9.29 - 9.30	志摩度会(五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i> <i>Prorocentrum dentatum</i>	7.29~7.30に五ヶ所湾の湾奥部(五ヶ所浦~神津佐~スギノ浦一帯の海域)で <i>Heterosigma akashiwo</i> および <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮が確認された。最高密度は <i>Heterosigma akashiwo</i> で9,450細胞/ml(0m層)、 <i>Prorocentrum dentatum</i> で15,300細胞/ml(0m層)であった。この赤潮による漁業被害は、現時点においてない。	不明	0m層	H.a. 9,450 P.d. 15,300	無	三重県水産研究所・南伊勢町南勢種苗センター・養殖漁業者
20 (S-8)	10.5 - 10.12	志摩度会(英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	英虞湾において、8.2を最後に一旦消滅した <i>Heterocapsa circularisquama</i> が、9.21に再び出現。10.5には100細胞/mlの密度を超え、赤潮へと規模を拡大した。この赤潮はその後10.12まで継続して確認された。この間の最高密度は1,090細胞/ml(10.5の又吉前2m層)であった。分布層は夏季のヘテロカプサ赤潮発生時(主に中・底層)とは異なり、表層(2m層)が中心であった。なお、この赤潮による漁業被害はなかった。( <i>Heterocapsa circularisquama</i> は100細胞/ml以上を赤潮として取り扱った )。	不明	2m層	H.c. 1,090	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ・真珠研究会

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無(被害整理番号)	情報源
21 (S-9)	10.12	志摩度会 (英虞湾)	<i>Skeletonema</i> spp. <i>Chaetoceros</i> spp.	10.9 にまとまった降雨があった。その後、10.12 に英虞湾の湾奥部から湾中央部において <i>Skeletonema</i> spp. を主体とする珪藻赤潮が発生した。この赤潮は翌週 10.18 の調査時には消滅していた。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m 層	S. spp. 24,650 C. spp. 2,165	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ・真珠研究会
22 (I-12)	10.12 - 10.18	伊勢湾(北東部)	<i>Skeletonema</i> spp.	10.12 から 10.18 にかけて、伊勢湾北東部海域で <i>Skeletonema</i> spp. による赤潮が確認された。漁業被害はなかった。	> 207	0m	S. spp. 40,750	無	愛知県水産試験場・へいわ・知多のり研究会・知多農林水産事務所
23 (S-10)	10.21	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	10.21 に、英虞湾奥部の鵜方地先で <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が発生した。最高細胞数は 12,350 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m 層	H. a. 12,350	無	三重県水産研究所・調査船まつかぜ

【備考】 (1) *H.circularisquama* は 100cells/ml 以上を赤潮として取り扱った。

【注】 (1) 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、( ) 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、K はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)

(2) 2 あるいは 3 海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば 2 つの海域にまたがって発生した場合は、1 つの発生に対して 2 つの整理番号を与え、発生件数は 2 件とカウントした。

(3) 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を 1 単位として記載した。